

11月10日は、『綿向山の日』。日野町では、近江の名山である綿向山により親しんでもらおうと、1,110mの標高にちなんで、平成8年10月29日に『綿向山の日』を制定しました。また、今年は鈴鹿国定公園が指定され、40年を迎える記念すべき年でもあります。四季折々に美しい景色の移り変わりを見せ、私たちに自然の恵みを与え続ける「綿向山」。その魅力をお伝えします。記念すべきこの年に、あなたも登ってみませんか？



紅葉始まる綿向山レポート 綿向山を見つめて

▲秋晴れの下、風に揺れるコスモスと綿向山（10月12日）

綿向山の間近で

生活をする

綿向山のすぐふもとにある西明寺。県道を行くと「ようこそ西明寺へ」とサツキで作られた文字が出迎えてくれます。家々からは日野のまちを見渡すことができ、綿向山に近いことを実感します。

綿向山から流れ出る日野川。その水を使用し、綿向山に最も近いところで、米を作る。綿向山の自然の恩恵を間近に受け、農業を営むことができるのも、この地域ならではのことで。長年西明寺にお住まいで、今も農業をされている壁田正一さん（79歳）にお話を伺いました。

壁田さんは、綿向山に近い場所に田んぼを持ち、お米作りをされています。「気温が高いと高温障害が起きますが、そういった被害も少ないです」と山の水は冷たく、きれいだからこそ被害が少ないことを教え



▲壁田正一さん。「たくさんの方が西明寺に来てほしいです」

てくださいました。「普段から収穫したお米をたべていると感じませんが、登山客と出会って話をしたり、旅行に出かけたりすると、良さを感じます」。おいしい水から、おいしいお米がとれる。安心して食べてもらうことができます。綿向山からの恵みを十分に受けたお米作りは、西明寺宮農組合の協力のもと、多くの力を集結して続けられています。5、6年前のこと、田んぼで作業





▲幸福ブナで記念撮影

10月13日(月・祝)、日野町・三方よし!近江日野田舎体験推進協議会による「鈴鹿国定公園指定40周年記念事業 綿向山エコツアー」が行われ、町内外から19名が参加されました。

綿向山の秋の自然を探る

お人柄もありますが、そのような心の交流も、綿向山から得られる恵みといえるのではないのでしょうか。

をされていた壁田さんは、綿向山から下山された方が疲れ果て、木の杖で降りてこられる姿を何度か見かけられたことがあったそうです。それをきっかけに、西明寺口、竜王山登山口に「安全に登山して頂くため私(杖)もお供させてください。無事下山されましたら、明日登られる人のために元へ戻してください」と書かれた看板とともに、廃材を利用した杖を100本余り用意され、設置されたとのこと。「今はもう残っていませんが、登られる方に使っていただいたのでしょうか」とその時のことを振り返られました。壁田さんのお人柄もありますが、そのような心の交流も、綿向山から得られる恵みといえるのではないのでしょうか。



▲綿向山の頂上で説明をする横山昇さんと説明に聞き入る参加者の皆さん

エコツアーとは、自然・歴史・文化など地域固有の資源を生かし、保全・保護をはかりながら観光を行うものです。今回の綿向山エコツアーは、竜王山・綿向山の縦走コースを登り、表参道を下る歩行距離約10Km、高低差約750mのもの。エコツアーガイドの横山昇さんの説明を聞きながら、綿向山を訪ねました。竜王山から綿向山へ向かう道中、ホンシャクナゲが生い茂る所がありました。5月中旬には、きれいなホンシャクナゲのトンネルを抜けることができます。綿向山の山頂付近には、風雪により変形したブナの珍変木ぼくへんぼくがあります。「幸福ブナ」と名づけられ、くると幸せになれるといわれています。綿向山の8合目付

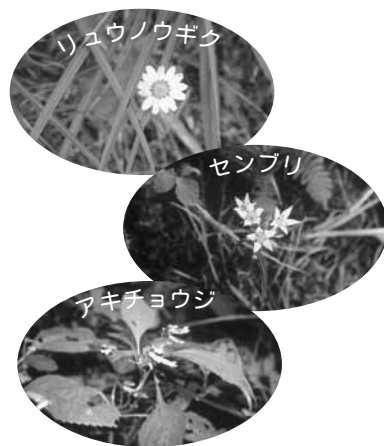


▲タンナサワフタギ

近にも大きなブナの木(金明ブナ)があり、7合目の行者堂付近にも美しいブナ林が広がっていました。表参道を下山すると、町の木「ヒノキ」も並んでいます。頂上の笹も芝生も自然のもの。登山の道中には、さまざまな植物を見ることが出来ます。日野が生んだ植物学者故橋本忠太郎氏が発見したワタムキアザミは、アザミの中では丈が低く、下向きに花を咲かせます。綿向山にちなんで、名前が付けられました。クサギ、シロモジ、ウリハダカエデ。少し紅葉したシラキ、ナツハゼ。センブリ、マムシグサ、ツルシキミにミカエリソウ。登山道には貴重な山の植物が何種類も見られました。

綿向山頂上には、タンナサワフタギがありました。他の山々を背景に、頂上に立つこの木。冬になると美しい霧氷がつくそうです。近年、綿向山は霧氷の見える山として、脚光を浴びています。8合目にはこんこんと湧き出る清水、「金明水」がありました。この

水が、綿向山近くにある田んぼの米作りにつながっていくのですね。植物・水・木…。じっくりと見渡してみると、綿向山には、さまざまな自然の恵みがあります。しかし、その自然は、細やかで、注意していないとすぐに消えてしまうものもあります。「鈴鹿モルゲンロートクラブ」、「綿向山を愛する会」など、綿向山を愛し、綿向山をよりよい環境にするために尽力されている方が、たくさんいらっしゃいます。身近な山「綿向山」の四季折々の自然を楽しみ、そして守っていくことは、日野に住んでいる私たちだからこそできることではないでしょうか。



▲ワタムキアザミ。葉はギザギザで薄い色